

20 MAY 1997



日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒107-91 港区赤坂8-4-17

赤坂郵便局私書箱62号

編集：JAAGA事務局

印刷：(財)防衛弘済会

【だより】第2号の発行にあたって

JAAGA 会長 大村 平



本紙の第2号の発行に際して、一言、ご挨拶申し上げます。
昨年7月に発足した日米エアフォース友好協会（JAAGA）は、発足直後から活発に行動を開始しました。

在日米軍司令官エバハート空軍中将の好意に満ちた積極的な、ご賛同のもとに、横田、三沢、嘉手納の米空軍基地を訪問し、各基地の主要幹部と懇談するほか、いくつかの行事を通じて米軍人を激励したことなどは、前回の【だより】の紙面を借りて、その一部をご報告したとおりです。

米空軍とのこれらの接触を通じて、在日米軍の軍人が日本人から感謝されることに無上の喜びと誇りを感じていることを、肌をもって再認識して参りました。

JAAGAの発足は、私たちの期待どおりの反応を得ているように思われます。この【だより】がお手元に届くころには、更に数十名の会員が航空自衛隊のご支援も得て、横田、嘉手納及び那覇基地を研修するとともに、基地の主要幹部と会食しながら懇談したり、エバハート中将をお招きして講演会を催したり、更には、米空軍の50周年の行事が行われて米国ネリス基地を数十名の会員が訪れるなど、JAAGAは、たくさんの実績を積み重ねていることでしょう。

JAAGAが発足して日も浅いにもかかわらず、このように、活動できることは、ボランティア精神に徹した会員の皆様のご協力によるものと感謝申し上げるとともに、献身的な努力をいただいている理事の皆様にも心からの敬意を捧げます。

今後とも力を合わせて、日米両空軍のいっそうの友好親善、相互理解に陰ながらお役に立って参りましょう。

JAAGA 一年の歩み

- | | |
|---|--|
| <p>8. 2. 吉 設立準備委員会発足</p> <p>5. 吉 入会案内開始</p> <p>7. 5 設立総会（会則決議、会長選出）、 名簿の作成・送付</p> <p>祝賀会（プリンスホテル）、（長官、 統幕議長、空幕長、在日米軍司令 官、外務省北米局長等出席）</p> <p>7. 16 第1回理事会（総会の事後処理等）</p> <p>8. 16 米軍及び空自の三沢基地訪問（設 立の挨拶・表敬）</p> <p>大村会長及び大橋理事</p> <p>8. 22 第1回常務理事会（8年度事業計 画の推進検討）</p> <p>8. 27 米軍、嘉手納基地訪問（設立の挨 拶、表敬）松村副会長、若江理事</p> <p>9. 8 日米共同・三沢基地航空祭への出 席、松村副会長、石川（吉）、松 井両理事</p> <p>9. 24 第2回理事会（会員の募集推進、 会報の発行、業務処理要領等の検 討）</p> <p>10. 1 “だより”創刊号の発行、名簿の 追録版の発行・送付</p> <p>10. 30 第2回常務理事会 （米基地の研修計画及び年度事業 計画（米空軍50周年行事への協 力等）</p> <p>11. 15 日米共同統合演習（三沢・千歳） の激励（千歳：朝倉会員）</p> <p>11. 29 第3回常務理事会（米空軍50周 年行事への支援事業等の検討）</p> | <p>12. 17 第3回理事会 （米空軍50周年行事への支援事 業等及び9年度事業構想等の検討）</p> <p>12. 22 国際平和維持活動への派遣米軍将 兵の激励（嘉手納：松村副会長） （三沢：近藤会員）</p> <p>9. 1. 9 第4回理事会（9年度事業計画の 検討）</p> <p>2. 21 第4回常務理事会（9年度事業計 画・収支予算案について検討）</p> <p>2. 25・26 法人会員の米軍・横田、嘉手 納、空自・那覇基地研修（27 社30名）</p> <p>2. 27 在日米軍司令官、エバハート中将 の講演会（GF市ヶ谷、会員97 名参加）</p> <p>2. 28 日米共同訓練（コープ ノース） 激励（新田原：大橋理事、築城： 齊藤理事、春日：中野会員）</p> <p>” 在日米空軍部隊指揮官の交代式典 参列（鈴木副会長） 横田：374 AW、三沢：35 FD</p> <p>3. 27 米空軍50周年行事参加空自B・I 部隊の激励（大村会長）</p> <p>3. 28 第5回理事会（9年度事業計画及 びその収支計画）</p> <p>4. 3 米太平洋空軍司令官及びハワイ州・ シビック・リーダー一行とJAA GA会員との懇親会（GF市ヶ谷）</p> <p>4. 22～27 会員による米空軍50周年記 念行事参加</p> |
|---|--|

在日米軍司令官 エバハート中将が講演

— 米空軍の展望 —



去る2月27日(木)午後、グランドヒル市ヶ谷での当協会主催の講演会で、エバハート中将が「米空軍の展望」と題し、熱弁をふるった。

聴講は、大村会長以下100名に及ぶ会員のほか平野晃顧問等、歴代航空幕僚長も多数参加した。

石塚理事長による講師紹介に始まり、「21世紀に向かっての米空軍の戦略的ビジョン」が、お馴染みマギーさんの通訳で進められ、その要旨は、次のとおりであった。

今日の世界秩序の変化と新しいテクノロジーの出現が我々に「グローバルエンゲージメント(地球的関与)」と呼ぶ新たなビジョンを求めた。

この出発点は、国家安全保障と軍事戦略を総括することであった。国家安全保障面では「関与」軍事戦略面では「拡大防止」である。

米国の軍事戦略は、軍事力が危機の拡大を予防し、或いは抑止し、もし失敗に終われば戦い、そして勝利することにある。

航空及び宇宙戦略は、この戦略の中で肝要な役目を担い、米空軍はそれに専念することである。

米国が適切な「航空及び宇宙戦

略」を保持するために、我々は「航空及び宇宙優勢」「地球的攻撃力」「地球的緊急移動性」「精密攻撃」「情報優勢」「柔軟戦闘支援」等の革新的な能力に重点を置いているとして、それぞれの能力について湾岸戦争、ボスニア、ルワンダでの例を引用し、又F-22、B-2、C-17、インフラレッドシステム、エアボンレーザー等の果たす役割について言及するものであった。

最後に、新ビジョンにとって大切なことは、米国の一般国民に伝えることであるが、この面での米空軍協会(AFA)は、極めて有益な仲介役を務めており、国家安全保障戦略の構築を支える重要な役割を担っている。

そのAFAと同様な役割に努力しているJAAGAの皆様に敬意と賞賛を表すと結んだ。

その後、活発な質疑が行われたが、その中に森統幕議長が往時訪米し、空軍参謀総長を表敬の時私(講師)は参謀総長の副官でした。

「そのせつは……」と和やかな雰囲気であったが、その内容は、エバハート中将の空軍省、参謀本部等の勤務歴で培われたオーソリティの蘊蓄を傾けたもので、聴く者を魅了した。

講演会を終わるにあたって大村会長から謝辞が述べられ、記念の武者人形が贈呈された。



協会からの御礼を受けるエバハート中将



会長等による米空軍基地訪問

—— 協会発足の挨拶と表敬 ——



昨年7月の協会発足後、当協会の設立趣旨説明と表敬のため、8月16日に大村会長と大橋理事が米空軍三沢基地司令を、又、8月27日に松村副会長と若江理事が米空軍嘉手納基地司令を、それぞれ訪問したのに続き、9月6日には石塚理事長と石川(武)、大橋の両理事が、横田基地を訪問して基地司令の第374輸送航空団司令ラフォンテイン大佐に面会し、先ず同司令に対し当協会の発会式に出席戴いたことに対するお礼を述べた後、副司令、キング大佐を交えて親しく意見交換を行った。

発会式に出席した同司令は、当協会の設立趣旨等については十分理解しており、我々の活動に大いなる

期待を表明すると共に、横田基地が周辺住民の理解と協力を得るために行っている努力についても熱心に説明した。

その後、将校クラブで、航空自衛隊から第5空軍司令部に派遣されている岡村1佐や基地の広報幕僚も交えての会食となり、多方面にわたり話の花が咲き、和やかな雰囲気うちに訪問の目的を達し、基地司令等に見送られて基地を離れた。

なお、ラフォンテイン大佐は、この度、准将への昇任が決定し、2月28日に横田基地司令の職を後任のブランディング大佐に申し送り、同日付けで第5空軍副司令官に栄転された。



日米統合実働演習を激励!

昨年11月4日から同月17日までの間、杉山統幕議長とラルフ・E・エバハート在日米軍司令官を統裁官とする日米統合実働演習が、主として北海道を舞台に行われた。

航空部門では、航空自衛隊/米空軍合わせて人員9100名、航空機約200機が参加した。

特に千歳基地には、嘉手納から第18航空団のF-

15、アラスカ州アイルソン基地から第354戦闘航空団のF-16等、合計25機の戦闘機等と約400名の兵員の米空軍が展開し、内容の充実した訓練が実施された。

11月15日には、基地内の隊員食堂で、吉田基地司令主催による演習終了の打上げパーティーが開かれ、日米の各級指揮官をはじめ、参加隊員一同に会

し、演習の反省と、更なる相互理解で盛り上がった。

パーティーには、JAAGAから千歳在住の朝倉会員が出席し、JAAGAを代表して激励と期待の挨拶を述べると共に、激励の金一封を贈呈した。



JAAGA 研修旅行に参加して

三菱重工業 特別顧問

日根野 穰



今回、横田・嘉手納・那覇基地への研修旅行に参加させて頂きました。その際の司令官のお話と所感を簡単に述べます。

エバハート中将（在日米軍兼米第5空軍司令官）ラフォンテン大佐（米第374航空輸送団司令官—当時）マッカーサ大佐（米第18航空団副司令官）皆さん「日本の繁栄はこの地域の平和のお陰であり、それには在日米軍の貢献が大きい」ということを強調されました。

またマッカーサ大佐は「我々には沖縄住民のために騒音削減（離着陸時間削減等）隊員の規律維持（新人教育等）地域との融和等大変努力している。

将校は日米防衛協力を十分理解しているが、一般の兵卒がどこまで理解できるか心配している」と云われ、エバハート中将も「同じ心配を持っている。さらに米本国の若い人が、真剣に日本を守ろうとするかも心配だ」と同じ意見を持っておられました。佐藤

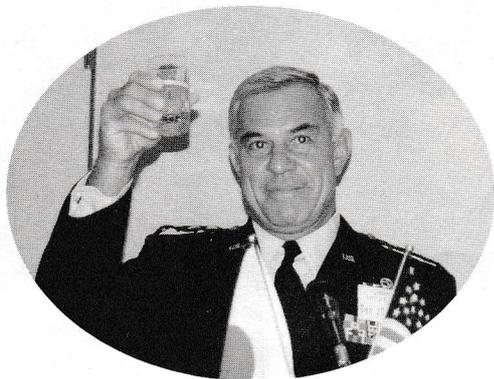
空将（南混団司令官）は「米国が何時までも日本を守ってくれる保証はない。その時になって慌てても遅い。危機感を持つ必要がある」と警告されました。

これらのお話を考えますと日米安保体制は非常に重要な時期に差し掛かっていることに間違いありません。

特措法は成立しましたが沖縄の人がどう納得して米軍基地を維持できるか？ いわゆるガイドライン見直しにおいて米国民が納得できる米軍支援を打ち出せるか？ この機会に国民一人一人が国の防衛について真剣に考えねばと思います。そのために少しでも役に立ちたいと思っています。

ローバー大將一行が訪日

— JAAGA 歓迎レセプション —



ロバート大將による乾杯

短い期間ではあったが桜満開の日、ハワイから、かつて三沢に勤務した太平洋空軍司令官ローバー大將とヒッカム周辺の名士（企業経営者、工場主、病院関係者など）約10名が視察ツアーで横田基地、

東京都内、大使館等を訪問した。当協会はエバハート第5空軍司令官の呼びかけに応え大村会長及び理事による歓迎会を去る4月3日グランドヒル市ヶ谷で開催した。

現役からも村木空幕長、岡本空幕監理部長、森空幕調査部長、飯田渉外班長が参加し、5空軍幹部を合わせ総勢50余名の盛会となった。

席上、会長と大將による挨拶の応酬は日米（空軍）友好のきずなからハワイと東京の天候談義にまで及びつつも、総じて空軍創立50周年の節目、そして新生JAAGAの方向等に関する力強い意志が表明された。2時間以上にわたった歓談ではカタコトあり、手まねもありながら参加者は文字どおりバラエティに富む話題を久しぶりに満喫した。



懇談会の風景



エバハート中將と歓談する村木空幕長

JAAGA シンボル（ロゴ）マークの募集案内

JAAGAの活動も軌道に乗り、今後益々、協会設立の趣旨に沿った、米空軍協会（AFA）米軍又は、それと親睦関係にある団体等との交歓の機会が増えております。

そのギフト交換用の楯、バッジ、タイピン等にも使用できる、JAAGAを象徴するロゴマークを募集することになりました。応募要領は次の通りです。奮って、ご応募下さい。

提案形式：適宜の用紙に色づけ（又は色彩を明記）した図案を描く

期限：平成9年9月1日

送付先：〒107-91 港区赤坂8-4-17 赤坂郵便局 私書箱第62号 日本エアフォース協会

入選者発表：次号紙上

入選賞金：5万円

『米 国 で 初 展 示 』

—— ブルーインパルス ——

今年米空軍は創立 50 周年記念行事を各地で開催しているが、ネバダ州ラスベガスでは 4 月 24 日夕、1 万人とも思われる参集者のもとで、空軍の過去現在を飾る 2 時間にわたる一大ショーと、それに続く夕食会が開催された。演出や内容に感激したのは我々日本人のみではないであろう。

屋外メインイベントは翌 25-26 日ネリス基地で行われた。「車でのご来場は御遠慮下さい」という日本の PR を想いながら、「車で来られる人は是非どうぞ」と言いたくなる敷地である。

この米国ならではの素晴らしい会場で、その昔活躍したカーチス/グラマンの各機、B-17、B-25 から B-52、B-2、B-117、更に C-46、F-86 等々それぞれのフライトを目のあたりにする感激を伝えられないのは残念である。

話題のアクロチームは、カナダ、ブラジル、チリー、日本、USAF、の参加となった。

各国とも、みじんのトラブルなく、喝さいをあびる技量を披露した。ヒイキ目ではあるが戦闘機 (USAF) との相異は否めないものの、我がブルーイン



パルスの展示は最高であり見事であった。

エプロンへもどるチームへの拍手の音を耳に残しながらの第 1 報である。

個人賛助会員（一般）募集御案内

本協会の趣旨に賛同し、事業に協力できる方を対象に、個人賛助会員の募集を始めました。正会員 3 名の推薦により、理事会の審査を経て、会長が入会を承認することになっていますので、個人賛助会員に相応しい方を積極的に推薦して下さい。個人賛助会員の年会費は 1 万円です。なお、当面は東京地区を主対象に募集し、逐次全国にその輪を広げて行くことにしています。

連絡先 〒 107-91

港区赤坂 8-4-17 赤坂郵便局 私書箱第 62 号 日米エアフォース協会 会員担当行

FAX 03-3780-2945 石母田 治 (日本航空電子工業)

☎ 03-3780-2961 石母田 治 (日本航空電子工業) ☎ 03-3507-9253 齋藤 嘉夫 (日本生命)

☎ 03-3489-1120 菅原 淳 (東京航空計器) ☎ 03-3639-9814 工藤 公光 (丸文)

女性ファイターパイロットがコープノースに参加

西空・3基地のフェアウェルパーティで激励

さる2月17日から同月28日までの間に、西空を舞台に日米協同訓練（コープノース）が行われ、米空軍は、嘉手納から新田原へF-15（8機）、三沢から築城へF-16（8機）が、それぞれ要員120名と共に参加した。そのフェアウェルパーティが2月28日に行われ、新田原へは大橋理事、春日へは地元の中野会員、築城へは齋藤理事がJAAGA代表として激励に駆けつけ、挨拶と共に金一封を贈呈した。以下は、築城を訪れた齋藤理事のレポートである。



いきや、これがなんと小柄で可愛い女性だったのには、再びびっくり。ご主人は本国でF-16の訓練中なので、三沢に赴任してきて、一緒に飛ぶ日を心待ちにしているとのことでした。

築城でのパーティは、米軍120名、空自135名、地元協会の八翔会から45名の総勢300名の盛大なもので、はなっから、ノリにノッておりました。

訓練中の休日に、八翔会会員宅ホームビジットが行われていたので、地元の人達とも既に顔見知りになっており、最初から大変うちとけた雰囲気でした。

酔って舌がもつれる前にと、早い機会に友好協会の設立趣旨説明と、激励のご挨拶をさせていただきました。

バラエティーに富んだ催し物が沢山、用意されておりましたが、なかでも、名物の「ひょっこ踊り」が披露されたときには、米兵が、青い目を白黒？させて歓声を上げておりました。認識不足の私が一番驚いたのは、F-16に女性パイロットが乗っていることでした。それもアマゾネスのような女性と思

私も、女性を第1線で働かせる、生命保険会社に籍を置いておりますので、大きな声では言えませんが「なんで、女をそこまで酷使うの？」と言う気がしました。やっぱり甘いんですか。

